



## 四旬節 2023

親愛なる姉妹の皆さま

私たちは、灰の水曜日から始まる2023年の新しい四旬節の道を歩み始めます。この日に灰を受ける行為は、私たちが生きる現代社会において、どのような意味を持つのでしょうか。例えばネットショッピング、世界中の人々とのコミュニケーション、そして家庭における在宅勤務など、私たちは多くの進歩に浴しています。その一方で、ミャンマー、ウクライナ、シリアなどは、さまざまな国の武力紛争を前にして無力感を抱いています。これまでメディアの陰に隠れて目立たなかったのですが、最近教皇フランシスがコンゴ民主共和国と南スーダンを訪問することによって、その存在を確認することができました。

このような現実を目の当たりにして、この時代において灰は何を意味するのだろうかと問いかけられています。この灰は、人間の偉大さにもかかわらず、私たちが弱い存在であることを思い出させ、立ち止まって内省する必要があることを思い起こさせてくれます。この四旬節は、私たちと神との関係や、私たちが神の愛によってどのように変容させられたかをより注意深く見つめるよう呼びかける恵みの時です。しばしば私たちの生活の中で多くのことを、外的なことだけでなく、とりわけ深い意味で、根本的に、すべてにわたって変えたいという気持ちが湧いてくることがあります。

教会が、この季節に勧める三つの取り組み、すなわち、祈り、断食、施しをいっそう深めるよう、改めて私たちに呼びかけています。祈りは私たちが神と一つに結び付け、神に集中させて、優先順位を決める助けとなります。姉妹たち、私はこの点で、私たちがすべきことはたくさんあると思います。キリストが本当に私たちの生活の宝になっているのでしょうか。もしそうであれば、私たちは、多くの物質的なものを必要としないことに気付くはずですが。このことは、私たちが断食をし、必要でないものを持たず、他の人と分かち合い、さらに、共同生活における真の愛を妨げるような態度をなくすことに繋がるのです。神のみ心を喜ばせる施しは、感謝する心から生まれるものであり、他者に与え、他と共有していくものです。それは、もっとも貧しい兄弟姉妹の苦しみを分かち合うという形で行われ、とりわけお返しができない人々に対して連帯の態度を示すのです。

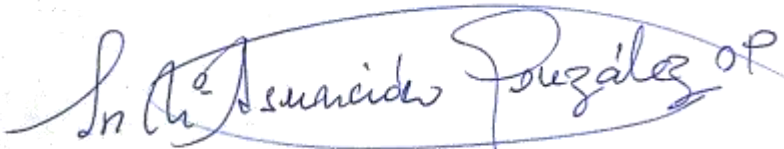
教皇は、この季節のメッセージの中で、イエスの変容の福音を振り返りながら、タボル山の登攀において、「イエスは、たぐいまれな出来事の証人となるために選ばれた3人の弟子を連れて行った」ことを思い起こさせます。なぜなら、私たちは一人で旅をするのではなく、共通の道を共に歩み、唯一の主の弟子となるからです。この旅は「個人と教会の変容」をその目的としています。

このメッセージの中で、教皇はこの目標に到達するための二つの方法を示唆しています。第一に、典礼の中で日々私たちに与えられる神のみ言葉を通して、イエスに耳を傾けることです。この聴くということは、教会にいる兄弟姉妹に耳を傾けることも含まれています。第二は、「日々の苦労と困難と矛盾に満ちた現実と直面することを恐れて、並外れた出来事や意外な体験によって生み出された信念に逃げ込まないこと」です。四旬節はそれ自体が目的ではなく、復活に向けられています。このことは、私たちが恐れることなく歩き続け、私たちの共同体の中でシノダリティを築き上げることを促すはずで

姉妹たち、どうか私たちがイエスとの交わりによって再び生まれ変わり、価値観を変え、束縛から解放され、そして心の傷を癒すことができますように。「変容させられた」私たちは、福音的責任において成長し、私たちが体験した神の愛を、喜びと確信をもって兄弟姉妹に告げ知らせることができるでしょう。

私たちの母であるマリアが、この旅において共に歩んでくださいますように。  
ご復活おめでとうございます！

姉妹的抱擁と祈りを添えて、



総長ソール マリア・アスンシオン・ゴンザレス, OP